

# 2015 年度活動報告 交換授業：インテンシブ 6A（文法・読解）

阿部 秀夫（関西学院大学日本語教育センター）

## 1. クラス概要

上級の学習を対象としたクラスで、1週間に2コマ（1コマ90分）の開講である。『TRY! 日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』（アスク出版）をテキストとして使用した。目標とする表現はテキストの題名にある通り日本語能力試験N1レベルの表現の習得であるが、当科目は試験対策ではないことを強調しておきたい。また長文に慣れるために、評論文・小説・新書等から1～3ページほどの文章を抜粋して読んだ。なお、積極的に様々な長文の教材を読む授業はこの一つ上のレベルとなる。クラス人数は今回は6名で、漢字圏（韓国）3名、非漢字圏3名というクラス構成であった。

## 2. 授業内容

授業のほとんどは1日1課で進めたが、提示される表現数によって2日で1課の課もあった。このテキストの良さは学習表現を全て含んだCD付の文章があることである。まず、この文章を読むことにより、表現の用いられる状況を把握させることができた。さらに、ターゲットの表現を教える時には、学生に分かりやすい状況を付け加えながら進めた。表現を自作させることもあったが、N1レベルの表現は固定的な表現があるので、まず、典型的な表現を覚えるように伝えた。

N1レベルの表現を教えるときには、しばしば「もっと会話でよく使う表現を学習したい」という声を聞く。そこで、「大人の表現」であること、どんな場面で実際に出てくるかということを絶えず学生に伝えながら授業を進めた。

長文を読む練習であるが、内容把握を重点におこなったことはもちろん、縦書きの文章に慣れてもらうということも意識して授業を行った。

## 3. 成果と今後の課題

アンケートでは全員が満足であったが、もっとたくさんの読み物、あるいは一つの読み物を読みたいという意見があった。しかし、カリキュラム上、学習項目外のことなので、自主学習できるように図書を紹介するなりしたいと思う。今回の学習者は細かいことに拘らずに典型的な表現をまず使ってみるという意識があったので比較的問題なく進んだ。学生によっては独自の例文を作りたいが、「大人の表現」とともに「典型的な例文」を絶えず意識させることもN1表現の学習の成果につながると思う。